

NVC Monthly



寝屋川映像同好会会報

第109号(201808)

発行 竹田 幸男



7月合同例会風景（市民活動センターワーキングスペース）

■寝屋川市映像協会合同例会開催

7月15日（日）、大阪北部地震の被害があり、いつもの総合センターが閉鎖されているので急遽市民活動センターで開催されました。この席で今年の大阪アマチュア映像祭への出品作が選考され、同好会からは谷さんの「ありがとう！ 金剛山」が選ばれました。その後はお茶とお菓子でおしゃべりを楽しみました。

例会の窓

映像同好会7月例会

日時：2018年7月11日（水）

場所：市民活動センター4階こども部屋

出席者：新井 小笠原 佐伯 妹尾 竹田 谷
中村地区委員

欠席者： 1名（50音順・敬称略）

例会次第

1. 報告・連絡・協議事項

(1) 会報随想 妹尾さん

(2) 7/15合同例会の件

- ・作品映写
- ・大阪アマチュア映像祭への出品選考
- ・懇親会（お茶とお菓子）200円
- ・会場は市民活動センター 4Fーキングスペース・和室 13:00～

(3) 文化連盟理事会の報告（新井理事）

- ・文化連盟展の準備 舞台部門開催9/23（日）
- ・映像出品募集 1人1～2作 1作品出品料 1000円
- ・募集締め切り8月例会（旧作品可）

(4) 第9回ビデオ作品発表会

- ・2019年5月18日 松心会館 3F会議室
- ・2作品の出品を予定願う。

(5) 市民芸術祭に向けた作品の準備

- ・今年も9月例会締め切りのつもりで準備を。1人1作10分以内

(6) ふれあいフェスタ10月7日への取り組み

- ・映像に関する相談受付や会員の学習の他に、フェスタ舞台を写真撮影してDVDにする活動も行いたい。協力者を求める。

(7) 文化芸術体験講座

- ・市の主催で今年の文化芸術祭の一環として実施。映像協会では「映像撮影・編集体験」として8月11・12日開催予定（別紙参照）エスポール会議室 10:00～15:00、会員の協力を求める。

2. 映写

(1) 竹田さん 会報108号所載の「写真による動画制作他」実験作品

(2) 谷さん「燕岳登山」 6分

- ・静止画と動画の混在編集、このときは高山病で大変だったとのこと。

- (3) 妹尾さん「新緑の奥入瀬溪流」 10分
・旅行の傍ら写された映像だが、良い風景が撮られている。
- (4) 妹尾さん「琵琶湖疎水」 10分
・前回の改良、トンネル入り口の文字などの静止画が追加された。
- (5) 新井さん「野崎まいり」 9分
・撮影会の時の映像ではなく、5月初めの、賑やかな野崎参りの時期に撮影された。お染久松のストーリーも組み込まれていて、本格的だ。
- (6) 新井さん「田んぼアートの遍歴」 9分
- (7) 小笠原さん「オオムラサキを見よう」
・行事の記録が主体だが3分ぐらいの作品にまとめることを検討中とのこと。

3. 各会員の最近の活動状況・情報交換・当面する問題点等（略）



誕生日を迎えて

妹尾 哲男

7月は私の誕生日である。松下電器現役時代は会社からメッセージとスプーンのセットなどの記念品を贈られた記憶が懐かしい。今年の誕生日は特別で会社の元同僚から早々と数え年の米寿のお祝いを贈られ、恐縮するとともに、自身の健康に改めて感謝している。

幼少期は病弱で自宅に医師の往診を依頼することが多く、入院も経験、小学2年時は1年間休学し、5年時は欠席日数が100日を超えた。両親は病弱な私の成長を大変に心配したようだ。幸いにも、その後は次第に体力がついてきて、自分なりの体調管理もできるようになり、進学、就職を無事乗り越えてきた。

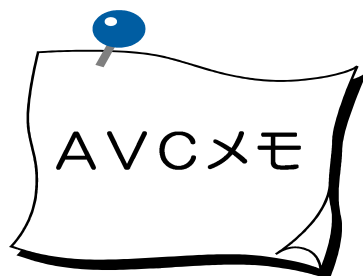
松下電器時代は知人から「温室勤務」と揶揄されるほど実に恵まれた無風の職場で36年間勤務できた。一時、転勤の話が進んだが、私の希望で取り消してもらい、転勤の見送りを一度も経験しないまま同じ建物で定年を迎えた。折に触れ、私のわがままを聞き届けてくれた鬼籍の元上司に感謝している。

定年後は知人の口添えで〇女子短大に職を得て、常勤から非常勤と延べ16年勤務した。振り返って、この期間が私の心身の健康にとっての黄金期の入り口であった。松下電器時代は車で通勤し、デスクワークに終始したが、第二の職場は片道約1.5時間をかけて、バス、電車、地下鉄と計5種類の交通機関を乗り継いで勤務した。乗り継ぎにはかなりの距離の歩行も必要で、お蔭で足腰が鍛えられた。仕事もデスクワークに代わって立ち仕事を中心となり、補助者もなく、コピー機もすべて自分で操作した。

最も悩まされたのはPCである。松下在職時の末期に職場には情報検索端末機としてPC IBMマルチステーション5550を導入したが、操作するのは担当の若い社員で、私自身キーボードに触れたことはなかった。当時PCは「若い人が操作するもの」という雰囲気があり、興味はあったが遠巻きに眺めていた。一転して、第二の職場では日々の連絡はもちろん、時間割・教材の作成、試験の採点・評価などすべてがPC経由となり、その対応には大変に苦労した。

振り返ってみて、第二の職場への通勤と立ち仕事、PCの試練が今日の私の心身を支えてくれているように思われる。このような道筋は夢想だにしなかったもので、その折々に出会った人の輪に支えられて道が拓けた。

誕生日にあたり、永年ご厚誼・ご支援を頂いてきた人々に心から感謝している。



余り物でパソコンを作る

竹田幸男

少し前、一般事務用に使っていたパソコンが突然動かなくなりました。これには非常に困った。何しろ、主としてメール・インターネットチェックから書類の作成、従として一部の映像の編集まで、ほとんどこれ1台でまかっていたから、とても困った。とりあえず中古のノートパソコンを安く仕入れて、壊れたパソコンのハードディスクから残ったデータを取り出してノートパソコンに移して、日常の仕事が続けることが出来た。前にもどこかに書いたと思うが、パソコンで作った文書やデータは、すべてCドライブには残さず、Dドライブに入れることにしていた。またインターネットからダウンロードしたデータもCドライブからDドライブにコピーしてあった。その配慮のおかげで、データ類はすべて無傷で残り、ノートパソコンで利用できた。というよりもDドライブのハードディスクを取り外してノートパソコンの外付けハードディスクとして、そのまま利用した。

そうしている間に、壊れたパソコンは主要部分を入れ換えて、また新しいパソコンに生まれ変わった。今度は映像編集にも使えるようにCPUはコア i 7-7700Kを使った。

壊れたパソコンから取り出したCPU、コア i 7-4990とマザーボードだが、パソコン本体ごとP・K店に持って行くと「CPUとマザーボードの、どちらかか、

または両方が壊れている」とのご託宣である。これでは答えにならない。言われなくても、それしか考えられない。このような不確定な診断しか出来ない原因は、この店では検討用の余分のCPUやマザーボードを置いていないため、判定すべき部品を良品に置き換えて判定することが出来なかったのだ。

次にJ・P店に持って行くと、ここには検討用のCPUとマザーボードが、いろいろ残っていて、それぞれ入れ換えて判断してくれた。結論は「CPUは生きている。マザーボードはだめ。」であった。

CPUは4万円ぐらいした。生き残った物をなんとか生かせないか。ところが世代が改まり、このCPUに合うマザーボードは、もう売っていない、と言う。世代が変わるとCPUのソケットのピン数も変わり、接続も出来ない。J・P店は新品しか扱わず、判定してくれたマザーボードは試験用として残していたものであり、売ってくれない。折角生き残った4万円のCPUだが、もう相手はいない。みすみすゴミ箱行きか。

そこで次にP・O店に行く。ここは、新品を売る傍ら、中古も扱い、また下取りもしてくれる。ここで再度見て貰うと、J・P店と同じ判定だった。生きているCPUを安値で手放すのも惜しく、この店で、生き残ったCPUの相手を探した。新品の半値以下で、中古のマザーボードが出ており、買って帰った。

しばらく、そのまま放っておいたが、思い出して取り出してみる。長い間こうして、作っては壊れ、ということをやっている間に、余り物の部品が残っていた。ハードディスクはある。BDドライブもある。メモリーはある。電源も余りがある。冷却ファンも、コード類もある。ウィンドウズ7も、残っていた・・・ということで、後はケースだけあればパソコン1台出来る、と見た。

折角だから、作っちゃえ、と作ったのが、これ。

一念発起して、マザーボードにCPUを取り付け、ケースにマザーボードを組み込む。ケースには、BDドライブ、ハードディスク、電源を組み込み、配線に移る。マニュアルに目をこらして、間違えないように配線を接続していく。スイッチを入れて、すぐ動かないと気分が良くないので、接続のチェックには念を入れ、誤配線がないように念を入れる。最も手間がかかったのは、壊れたパソコンから外したCPUクーラーの取り付け足のガイド（正式には何という名か？）が曲がっていてうまく挿入できないので、折角組み立てたものをケースから取り外して、付け直した

りした。組み立ては半日足らずで出来た。

手間がかかるのはこれから。電源を入れてUEFI設定画面が出てくる。冷却用の各所のファンの回転数が出ている。CPUの温度が計測されている。うまくいきそうだ。続いてOSのインストール。これはパソコン1台にしか入れられない。ウィンドウズ7、32ビットが、なぜ今まで使うこと無く残っていたのか。もう既に使っていたのではなかったかとの疑念がわいたが、ネットにつないだ瞬間、何の問題も無く認証が下りたので、やはりこれは新品だったのだ、と、胸をなで下ろす。

その昔、5球スーパーラジオを組み立てて、スイッチを入れた途端、スピーカーから放送が聞こえてくる、という、あの喜びの気分が、いま、ここによみがえる。

組み立ては早かったが、ソフトウェアのインストールは、基本的には映像関係中心に絞ったが、あれも入れよう、これも、ということで何日もかかってしまった。

ある朝、スイッチを入れてみたところ、何も画面に出てこない。昨夜までは機嫌良く画面に映っていたのに、早くも壊れたのか、といろいろ見ても、何もわからない。そのうちディスプレイにはHDMIコードでつないでいたのを、古くさいD-Subコードに替えてみた、その途端、ちゃんと画面が写っているではないか。なぜ？ 一夜にして設定が勝手に変わったのか、今でもわからないが、モニター映像表示はきちんと出来ているので、もう少しいろいろ調べながらHDMI接続が出来るように対策していこうと思っている。HDMIコードは、映像だけで無く、音声も伝送してくれるので、コード1本でモニターからも音が出る。HDMIコードが使えないので、しばらくは音声は別のコードでの接続になる。 ■